

Economic Indicators

発表日: 2023年3月16日(木)

貿易統計(2023年2月)

～貿易赤字(季節調整値)は縮小も、輸出は低迷～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		原数値	季調値	輸出金額	輸入金額	前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
				前年比	前年比		前年比	前年比	前年比		前年比	前年比	
22年	1月	▲ 22,201	▲ 9,469	9.5	39.0	▲ 4.6	▲ 1.1	9.7	▲ 10.5	4.7	4.6	20.9	3.8
	2月	▲ 7,115	▲ 9,909	19.1	34.6	2.8	5.0	2.0	6.1	▲ 0.8	6.0	13.0	▲ 5.4
	3月	▲ 4,649	▲ 9,876	14.7	31.9	▲ 1.4	11.7	7.6	▲ 7.2	0.0	▲ 2.0	2.9	▲ 0.3
	4月	▲ 8,549	▲ 14,046	12.5	28.3	▲ 4.5	7.9	6.8	▲ 8.2	▲ 8.9	▲ 10.2	5.2	▲ 15.5
	5月	▲ 23,661	▲ 18,067	15.8	48.5	▲ 3.5	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 4.2	4.6	▲ 1.7	6.3	3.1
	6月	▲ 13,750	▲ 19,081	19.2	45.6	▲ 1.6	▲ 1.7	6.7	▲ 2.5	1.3	▲ 1.8	▲ 6.7	2.0
	7月	▲ 14,219	▲ 21,085	19.0	46.9	▲ 2.0	▲ 5.6	17.3	▲ 2.2	2.2	17.5	▲ 4.2	2.2
	8月	▲ 27,904	▲ 22,866	22.0	49.3	▲ 1.1	10.4	▲ 1.5	▲ 3.9	2.7	4.0	▲ 8.4	4.1
	9月	▲ 20,992	▲ 20,266	28.9	45.8	3.8	18.2	11.2	▲ 2.5	▲ 1.6	1.8	5.8	▲ 0.1
	10月	▲ 21,715	▲ 23,160	25.3	53.6	▲ 0.3	4.7	9.3	▲ 6.1	5.6	4.9	22.8	6.0
	11月	▲ 20,319	▲ 18,730	20.0	30.3	▲ 3.6	1.0	9.0	▲ 8.3	▲ 4.6	▲ 7.7	3.2	▲ 4.7
	12月	▲ 14,586	▲ 18,320	11.5	20.8	▲ 7.1	▲ 2.7	10.1	▲ 12.3	▲ 6.4	▲ 5.4	11.2	▲ 10.3
23年	1月	▲ 34,986	▲ 18,233	3.5	17.5	▲ 10.9	▲ 3.4	▲ 4.3	▲ 15.3	▲ 2.3	▲ 10.6	▲ 6.5	▲ 3.1
	2月	▲ 8,977	▲ 11,907	6.5	8.3	▲ 7.9	▲ 1.2	1.4	▲ 12.8	▲ 7.7	▲ 6.3	0.1	▲ 8.5

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○貿易収支(季節調整値)は赤字幅縮小

財務省より発表された23年2月の貿易統計では、輸出金額が前年比+6.5%、輸入金額が同+8.3%、貿易収支は▲8,977億円の赤字(事前予想:▲10,693億円の赤字)となった。資源高と円安の一方で輸入物価がピークアウトしていることで、輸入は前年比伸び幅を大きく切り下げた(1月+17.5%→2月+8.3%)。加えて、1月は中華圏における春節の時期が昨年と異なったことにより輸出が押し下げられていたが、2月はこうした春節の影響が輸出を押し上げる方向に動いたことで、輸出は前年比伸び幅を高めた(1月+3.5%→2月+6.5%)。これにより貿易収支は赤字幅を縮小させ、事前予想を上回る結果となった。季節調整値でも、輸出が前月比+4.4%と4か月ぶりのプラスとなった一方で、輸入は同▲3.0%と4か月連続のマイナスとなり、貿易収支は▲11,907億円の赤字と前月から赤字幅を縮小させた。

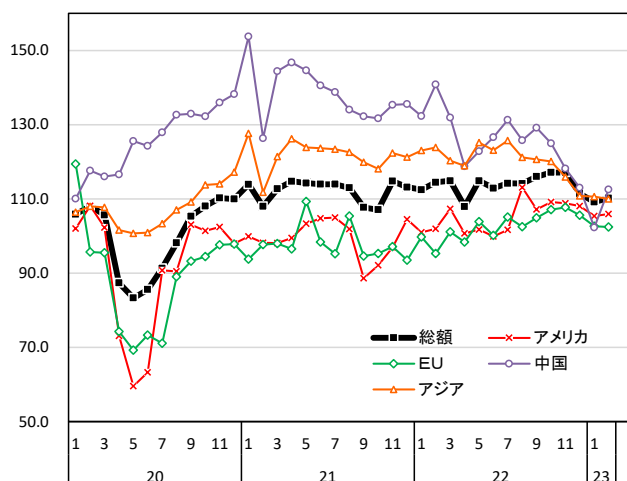
○輸出は低迷が続く

2月の輸出金額(季節調整値)は前月比+4.4%となったが、1月の同▲6.1%の落ち込みを取り戻すには至らなかった。物価変動の影響を除いた実質輸出(季節調整値)でも前月比+0.9%と、1月の同▲2.0%から戻りは弱い(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。中華圏における春節の時期が昨年と異なったことで2月は増加が予想されていたが、増加幅は物足りないものであり、輸出の基調は弱さが続いている。地域別では、春節要因の反動によって中国向けが大きくリバウンドした(前月比:1月▲9.5%→2月+10.0%)一方で、米国向け、欧州向けは軟調な動きが続いた。

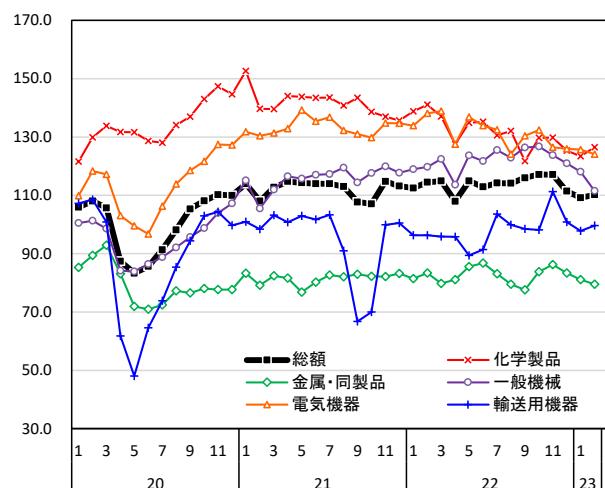
この結果、実質輸出の1-2月平均は10-12月期対比で▲4.8%となった。1-3月期の輸出は前期比マイナスが確実だろう。1-2月平均を地域別にみると、米国向けが10-12月期対比▲2.8%、欧州向けが同▲4.0%、アジア向けが同▲4.6%、うち中国向けが同▲9.5%となった。中国向けについては、1月、2月の春節の影響を均してみても、昨年末以降の中国国内の感染拡大の混乱で大幅な減少となっている。加えて、米国向けや欧州向けは減速感を強めており、供給制約の影響が残存する輸送用機械の停滞に加え、一般機械といった資本財も年明け以降は明確な減少傾向にあり、景気減速の影響が見受けられる。

先行きに関しては、ゼロコロナ政策からの転換と感染動向の落ち着きで景気が上向き始めている中国向けは持ち直しが期待できる一方で、金融引き締めの影響でこの先も経済減速が見込まれる米国向け、欧州向けが落ち込むことで、輸出全体も低迷した状態が続くだろう。資源高、円安の一服によって輸入物価の下落も続く一方、輸出が低迷することから、貿易収支（季節調整値）は高水準の赤字が続くと予想する。

地域別実質輸出(季節調整値)の推移



財別実質輸出(季節調整値)の推移



(出所) 財務省 ※実質化および季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。